

社団法人名古屋工業会会誌



2010 5-6 月号

[式辞]

平成21年度学位記授与式 学長式辞 平成21年度 名古屋工業会賞贈呈式 理事長挨拶 平成22年度入学式 学長式辞

[対 談]

高橋実 新学長・篠田陽史 理事長に聞く

[OBトップセミナー]

就職ガイダンスでのOB講演会

[交流コーナー]

思い出

ひとつの欧州へのアプローチ

[学内ニュース]

名古屋工業大学の環境対策 名工大、インドネシアに同窓会を設立 ボート部 新艇庫完成 平成21年度学生表彰を実施

[ごきそホットライン]

パズル

No.435

発行 社団法人名古屋工業会

(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062名古屋市昭和区狭間町4 TEL • 052-731-0780

FAX • 052-732-5298

E-MAIL • gokiso@lime.ocn.ne.jp

http://www.nagoya-kogyokai.jp/



ごきそ技術士会の設立のご案内

名古屋工業大学ごきそ技術士会準備会事務局

1. 名古屋工業大学ごきそ技術士会の設立主旨

我々名古屋工業大学卒業生の技術士有志は、技術士の資格を有する名古屋工業大学卒業生を結集し、大学関係者の協力を得て、大学への教育支援、名古屋工業会との連携、会員の職務能力向上と社会的貢献を果たすため、「創造性豊かなサロン」として、名古屋工業大学ごきそ技術士会(略称ごきそ技術士会)の設立に向けて準備を開始しました。

技術士は、技術者として最高位に位置づけられた国家資格で、プロフェッショナルエンジニア や技術コンサルタントとして社会的に認知されています。技術の高度化、情報化、企業活動の国 際化などにより、技術士は技術者のリーダーとしてその職場で活躍することだけでなく、地域や 社会に貢献することが期待されています。

ごきそ技術士会は、技術部門を越えて会員の相互研鑽と親睦を通じ、名古屋工業大学の学生や教職員と交流できる場の創設や、名古屋工業会、日本技術士会、他大学技術士会とも連携しながら、会員の職務能力の研鑽を図り、地域そして社会への貢献に寄与して行きたいと考えています。

2. 名古屋工業大学ごきそ技術士会設立総会のご案内

下記のように設立総会を企画しました。設立主旨にご賛同いただける方のご参加をお待ちします。

◆◆◆ 設立総会のご案内 ◆◆◆

日時:平成22年(2010年) 6月26日(土曜日)午後13時から

場所:名古屋工業大学23号館2311教室(旧共1教室)

内容:

総会:会長選出、会長挨拶、来賓挨拶、規約等に関する審議

特別講演:名古屋工業大学 高橋実学長

パネルディスカッション:「地球環境に対して、技術者が出来ること、なすべきこと |

基調講演:村田朋美氏((独)科学技術振興機構イノベーション推進本部プログラムオフィサー、

新日本製鐵㈱フェロー、北九州市立大学名誉教授、K37)

パネリスト: 高橋実学長、村田朋美氏、末利銕意氏(技術士化学、総合技術監理部門、徴日本 技術士会理事・副会長、㈱テス・リサーチ代表取締役、D41)

交流会:午後17時30分から19時30分まで

名古屋工業大学校友会館(旧三協会館)1階レストランCafé Sala(カフェサーラ)

- 3. 連絡先 まずは以下のアドレスにアクセスしてください
- ○名古屋工業大学ごきそ技術士会準備会事務局のメールアドレス

pe-gokiso-junbikai@googlegroups.com

○橋本英樹技術士(金属、総合技術監理部門、Zkl)のブログ(Google等で、「ごきそ技術士会」で検索をかけると、直ちに検索できます。)

http://pe-nit.blogspot.com/

(文責 名古屋工業大学ごきそ技術士会準備会事務局 田中秀和(技術士情報工学部門、Es48)

表紙写真説明

「名工大の入学式にて」

桜が満開の名古屋市公会堂にて平成22年度の入学式が行われました。 会場の前には新入生に我が部をアピールしようと、たくさんの部活動の在学生が集まっていました。

撮影者 黒柳 奨 (E[③)



平成21年度学位記授与式

学長式辞

国立大学法人名古屋工業大学 学長 松井 信行(E41,修士43)

皆さん学位取得おめでとうございます。博士29名、修士611名、学士990名の皆さんに、本日学位記をお渡しできました。社会人学生として研鎭を積まれた方々、留学生として努力を重ねてきた方々を含めて、皆様のご卒業を共にお祝いしたいと思います。

実は3月末を持って学長任期が満了しますの で、今日が私にとっても名古屋工業大学の卒業 式になります。私は1962年に当時の名古屋工業 大学電気工学科に入学し、1968年に修士課程を 修了しました。少年時代を過ごした和歌山市内 を走る路面電車の虜になり、文字通り今で言う 「鉄ちゃん」だった私に、中学時代からお付き 合いのあった先生が「今の鉄道は蒸気機関車、 だから機械工学、でも将来はきっと電気になる、 だからお前は電気工学をやれ」と言われて電気 工学を選び、モータの勉強をやりました。単純 な、しかし決定的な選択でした。1950年に当時 の国鉄が世界に先駆けて実現させた「湘南電車」 と呼ばれる16両編成の電車列車にワクワクして いたものですから、鉄道技術研究所に就職を考 えていたのですが、指導教授のお勧めを受け、 研究所に比べてとても安かった給料を覚悟の上 で大学教員になりました。半導体を用いたモー タの制御が産業界はもとより鉄道の新しい技術 課題でした。一方で、多くの人から「百年以上 の歴史を持つ鉄と銅の塊でしかないモータの研 究に将来なんて無いぞ」と言われましたが、私 は好きな道でしたからためらいはありませんで した。1976年に学位を取得した折に「研究の切 り口を変えろ」と言われ、当時世に出始めたマ イコンを使い、それまでは電子回路で制御して いたモータをソフトウエアで制御することに挑 戦するとともに、海外の学会に出席するように なりました。

世界中の研究者はモータの電磁現象を、百年以上の長きに亘って二次元平面で捕らえてきています。その間に、エネルギー問題や環境問題などの新たな時代の要請に呼応して、改善に次ぐ改善の中で、新幹線のモータや、直近ではプリウスのモータなどが出現しました。今、私たちの研究グループは従来の常識を破り、モータの電磁現象を三次元で捉え、電気工学のみならずIT技術や材料工学の新たな知見を取り入れて、新構想の画期的な高エネルギー密度モータを実現しました。今、この大学でそのモータは確かに回っています。

自宅で家族と過ごすよりは研究室の学生と過ごす時間のほうが長い生活の中で、個性の異なる学生の性格を見極めてテーマを分担してもらい、チームワークを大事にし、准教授や助教の協力を得て研究費の確保や国際学会の開催に努力しました。こういった研究室運営の経験が、後日の大学運営に役立ったように思います。若いときにひるまずいろんな経験を積むことが、いつの日か役立ってくることを実感しております。

ご承知のように、現在の経済状況には大変厳 しいものがあり、世界経済の構造変化のなかで、 閉塞感が漂っています。この閉塞感の中で、自



分の将来をどのように考えればいいのでしょうか。答えは実は簡単です。自分が直感的に好きだと言う理由で選んだ道に一途に取り組むことです。どんなに慎重に考え抜いても、社会情勢の変化など予期できない障害が皆さんの仕事に立ち向かってきます。しかし、好きな道ならいわば境界条件がどのように変わっても、満足感を味わいながら仕事を続けることが出来ます。同時に大事なことは、自分の取り組んでいる課題を多面的に客観的に評価する冷静さを失わないこと、その問題の解決が社会にもたらす価値を常に意識することです。これがマネジメント

能力に繋がってくるのです。また、心の豊かさを失わないためにも、例えばスポーツや文化、歴史などに造詣を持ち、そこでの人のつながりを大事にして、仕事とは別の自分の世界を持ち続けることをお勧めします。

今日は、皆さんと一緒に私も卒業することになりますので、いつもとは違ったご挨拶をさせていただきました。50年近く名古屋工業大学にいて、改めてこの大学で学んだことを誇りに思っています。一緒に卒業する皆さんと、今日を契機に新たな人生に挑戦して行きましょう。卒業おめでとうございます。

名古屋工業会賞の贈呈

名古屋工業会賞の贈呈式が平成22年3月23 日(火)に名古屋工業大学学位記授与式の中で 行われ、篠田理事長から下記の22名に表彰状 と記念品(刻名入り時計)が贈呈された。

名古屋工業会賞は、第一部・第二部の各学 科を卒業する者のうち、在学中の学業成績が 極めて優秀であり、豊かな感性を持ち他の学 生の模範となる学生に対して、学長の推挙に 基づき贈呈するものです。



贈呈者

(第一部)

生命・物質工学科	志水亜也子	山本 浩輔	佐藤 友香
環境材料工学科	倉地 宏和	中川 翔太	
機械工学科	清田 大樹	夏野 匡哲	松原 賢
電気電子工学科	近藤 琢哉	石崎 亮多	犬塚 博章
情報工学科	宮越 善裕	多田 圭吾	末次 克也
建築・デザイン工学科	小島 崇徳	深谷 晃輔	
都市社会工学科	長田 直也	小林 常晃	

(第二部)

物質工学科	村上 貴則	電気情報工学科	吉田 敦史
機械工学科	中田 元晴	社会開発工学科	柴田 賢

平成21年度 名古屋工業会賞贈呈式

理事長挨拶

社団法人名古屋工業会 理事長 篠田 陽史(M33)

平成21年度学位記授与式にあたり、社団法人 名古屋工業会を代表して、ご挨拶申し上げます。 本日、皆様方にはめでたく学位記を授与され ましたこと、心よりお祝い申し上げます。

また本日学位記を授与された皆様、ご同席のご家族そして関係者の皆様には栄えあるこの日を迎えられ、感激と喜びも如何ばかりかと感ずる次第であります。

また先程、名古屋工業会賞を受賞されました 22名の方々、在学中のたゆまぬ研鑽に対しこれ また深く敬意を表するものであります。

御承知の事とは存じますが名古屋工業会は母校の支援と会員の啓発、研鑽と連絡親睦を事業目的としており、在学生、卒業生、そして教職員とそのOBの方々を会員としております。

本日はその事業の一つとして、極めて学業成績が優秀であり人格に優れ他の学生の模範となると認められた本学卒業生の方々に対し、学長の推挙に基づき名古屋工業会賞を贈呈いたしました。大いなる活躍を期待します。これから皆さまは社会に出る方、さらなる勉学の道に入る方とそれぞれ新しいスタートとなります。

先輩から今卒業の諸君に話が出来るこの少ないチャンスに是非とも伝えたいことがあります。諸君は国立大学の卒業生ではなく、国立大学法人の卒業生です。学部では4年間、修士、博士課程ではそれぞれの大学生活を過ごすなかで多分国立大学と国立大学法人との違いを感ずることは無かったと思います。しかしこれは本当に大きな違いです。法人化は大学は自分で生きて行く事を要求しています。

今までは6万人にならんとする卒業生の産、 官、学での大きな実績のバックアップにより就 職難を感ずることは少なかった筈です。これか らは諸君がこれを担わなければなりません。諸 君が大学を支援する番となります。

名古屋工業大学への帰属意識、アイデンティティーを強く持って欲しいことです。母校が衰退して行く事は諸君に対する社会の評価が下がって行く事を意味します。色々な意味で不利になることです。何度も言いますがこれからは諸君が卒業生として、大学を支え、繁栄させて行く役目を担う立場になった事を忘れないで頂くようお願いします。

話を変えまして、今名古屋工業会では、現在、 実社会で活躍されている諸先輩から諸君に語り かける機会を増やしてきておりますが、本日は、 その中から共通する考え方を紹介して花向けと したいと存じます。昨年は4名の方々に講演し て頂きましたが共通して語られていることは、 『コミュニケーション能力』の向上です。所詮、 一人で出来ることには限りがあり、多様な分野 の人々とコミュニケーションを取ることが必要 となるからです。

さらに、『絶えざる自己啓発』の必要性についても、皆さんが強調されております。本日めでたく学位授与を受けられた諸君、人生は生涯が勉強です。単位取得の為ではなく、自らの能力を向上させる為の勉強です。『問題意識』『改善意欲』を持ち続け、『目標』を持って、それぞれ、与えられた仕事に打ち込んでください。実績が上がれば、自信につながり、プライドを持って仕事が出来るようになります。

こうして、諸君の社会的信用度もあがり、さらに重要な仕事が任される事になるのです。そのためにも、常に『自己啓発』する習慣を付けてください。コミュニケーションのネットワークを強化するには名古屋工業会を活用してください。きっと有益な情報が見つかる筈です。

最後になりましたが、これまで皆様を育ててくださいました、ご家族に深い敬意を表しますと共に、この国立大学法人化の荒波のなか、素晴らしいかじ取りで大学を導いてこられ、この3月31日に退任されます松井学長、教育、研究のご指導を頂きました、教職員の皆さま方に深甚なる謝意を表し、私の挨拶といたします。





平成22年度入学式 学 長 式 辞

国立大学法人名古屋工業大学 学長 高橋 実

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。 本日、大学院730名、学部981名、総計1,711名 を名古屋工業大学に迎えました。

本学は、明治38年に官立の名古屋高等工業学校として創設され、今日に至るまで7万人を超える優れた人材を輩出し、我が国の産業社会の礎を築きその繁栄を支えてきました。充実した実践教育により育てられた人材の質はほぼ100%の就職率と産業界等での高い幹部職登用率に繋がっています。民間の調査報告では、これらの項目は度々トップ・テンにランクされています。現在、学生数は国立大学工学部の中で屈指の規模を擁し、基盤的ならびに先進的工学分野をほぼ網羅しています。また女子学生比率は約11%、留学生比率は約7%と20年前に比較して4~5倍に増加しており、社会人も含めて学生構成は多様化しています。

いま社会は大きな変革の最中にあり、時代に相応しい大学の革新が問われています。本学は「ひとづくり」、「ものづくり」、「未来づくり」 を掲げ、魅力的で個性の光る自立性に富む大学となるべく歩み続けます。

皆さんはこれから志望した教育研究分野で研 鑚を積むことになりますが、是非とも基盤産業 の革新に貢献するリーダーあるいは産業の創成 に貢献するリーダーとなるべく大きく成長して 頂きたいと願います。

ところで、皆さんが子供の頃と比べて科学技術がどの様に変わって来たのか思い浮かべて下さい。人によって異なるでしょうが、インターネット、携帯電話の普及、最近ではハイブリッド・カーの登場などが挙げられるでしょう。

工学の観点から、私がこの数十年ほどで変わったなと思う点を3つほど上げます。

1つ目は、価値観のシフトです。例えば、自動車・航空機などの輸送機器や情報機器は、モノあるいは情報の輸送という視点で見ると大

量、高速、低コストを基本的価値観として革新 が図られてきました。しかし、近年では、安全・ 安心・情報セキュリティー・環境などの価値観 が大変に重視されるようになりました。

2つ目は、システムやメディアの革新的技術の出現により、これまで当たり前のように使っていた「製品」が、あっという間に市場から駆逐されることです。例えば、通常の写真フィルムはデジタルカメラの登場により過去の商品になりつつあります。その他、照明器具や映像機器など枚挙にいとまがありませんが、「もの」をつくるあるいは改良すること自体が否定されるということは大変なことです。ただし、確かな技術は他への転用あるいは応用が可能であることも心に留め置いて下さい。

3つ目は、工学が対象とする領域が拡大化あるいは統合化していることです。例えば、リーマン・ショックの報道で耳にしたかと思いますが、確率微分方程式を援用した「金融工学」などはこれまでの工学の発想ではなかなか思いつかないものです。また、スマートグリッドなどはエネルギーの創成・流通・利用技術と情報通信技術あるいはハードとソフトの統合とも言えるでしょう。

これからの科学技術の予測は容易ではありませんが、本学もあらゆる分野において、地球規模での課題を解決し、未来を切り開く科学技



術の革新の一翼を担うべく努力する所存です。 近々で、今回のスペースシャトルには、国際宇宙ステーションで行われる本学が先導する半導体材料の開発試験装置が積まれています。皆さんも本学が提供する教育研究環境の中で、いわゆる要素技術だけでなく社会や産業の動向をしっかりと掴まえ、真の社会イノベーションを担える力を身に付けて欲しいと思います。

さて、国立大学が法人化された以降、各大学は6年間の中期目標・計画を立て、それに沿った教育研究や業務運営を実施することになっています。今年は第2期中期目標・計画期間の初年度になります。皆さんに直接関わる重要な目標として、「与えられる」教育から「自ら育つ」教育に重点を移し、実践能力を有する自立した高度専門職業人を養成することを謳っています。また、学部学生約7割が大学院博士前期課程に進学する状況を踏まえ、学部と大学院の接

続性や連続性に考慮した複線的な教育体系を実現したいと思います。さらに、学生の海外派遣や留学生受け入れなど、国際交流を強化し、世界的な教育研究拠点の構築と国際的視野を持った学生を輩出することを目指します。

皆さんにはまずは日々の確実な学修に励んで下さい。その上で、皆さんにとっては教室だけでなく課外活動、旅行あるいはボランティア活動など至る所、至る時が人間力やコミュニケーション力の向上に役立つでしょう。

最後になりますが、大学は人間が産み出した 最良の制度の1つです。本学は、「名工大学生 であること、あったことを誇れる」教育研究を 実施するとともにその環境づくりを推進しま す。皆さんにおいては、本学卒業生への期待が 大変高いことを自覚して頂き、充実したキャン パスライフを送って下さい。以上をもちまして、 本日の式辞とさせて頂きます。

成績優秀入学者表彰

この表彰は、今年度から新設された制度で、 平成22年度の前期日程入学者選抜試験において、各学科の最上位の成績で合格し入学した 学生に対し、名古屋工業大学基金から30万円 を贈呈するものであり、以下の7名が表彰された。

表彰者 第一部

生命・物質工学科 服部礼奈 環境材料工学科 河合諒弥 機械工学科 田中健太郎 電気電子工学科 磯崎順平 情報工学科 若尾大地 建築・デザイン工学科 谷澤祐典 都市社会工学科 山田早桐



